

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP	学習成果
法学基礎演習	川上 哲	講義	2		1, 2, 3, 4	1, 2, 3, 5	1, 2, 3, 4
授業概要 授業目的	<p>この演習では、政治学や行政学の立場から日本の政治や行政の諸問題を扱っていく。自らの問題関心を深めてもらうため、日本の政治や行政に関わる文献輪読を通じた討論を行う。</p> <p>この演習には日本の政治や行政に関心がある学生の受講を求める。一人複数回は必ず報告する機会を設けるので、自らの報告を分かりやすく伝えるための訓練の場として積極的に活用してほしい。また適切な質問や議論は、自らの問題意識を深める格好の機会であることも学んで欲しい。</p>						
到達目標	<p>①基本的なアカデミック・スキルを身に付ける。</p> <p>②日本の政治や行政への問題関心を深める。</p> <p>③自らの見解を分かりやすく伝えることができる。</p>						
回	学習内容						
1	導入（ガイダンス）－ゼミ概要及び評価方法						
2	行政サービス						
3	官僚制						
4	アメリカ行政学						
5	日本の行政学						
6	現代国家の政府						
7	中央地方関係						
8	議院内閣制						
9	省庁制						
10	現代公務員論						
11	官僚制分析						
12	官僚制組織						
13	第一線職員						
14	官僚制批判						
15	政策形成と政策立案						
予習内容 復習内容	<p>毎回の授業で扱う文献の指定箇所を事前に読み、疑問点を整理しておくこと。</p> <p>授業後に議論の内容を整理し、疑問点を解消しておくこと。</p>						
教科書	受講生と相談して決める。						
成績評価	評価は出席時の発言内容（50％）と報告内容（50％）で評価する。						
実務経験							
その他 特記事項	本科目は演習科目であるので、毎回の出席は当然のこととして参加すること（無断欠席は大きく評価を下げる）。また受講生には議論への積極的な参加＝発言を求める。						